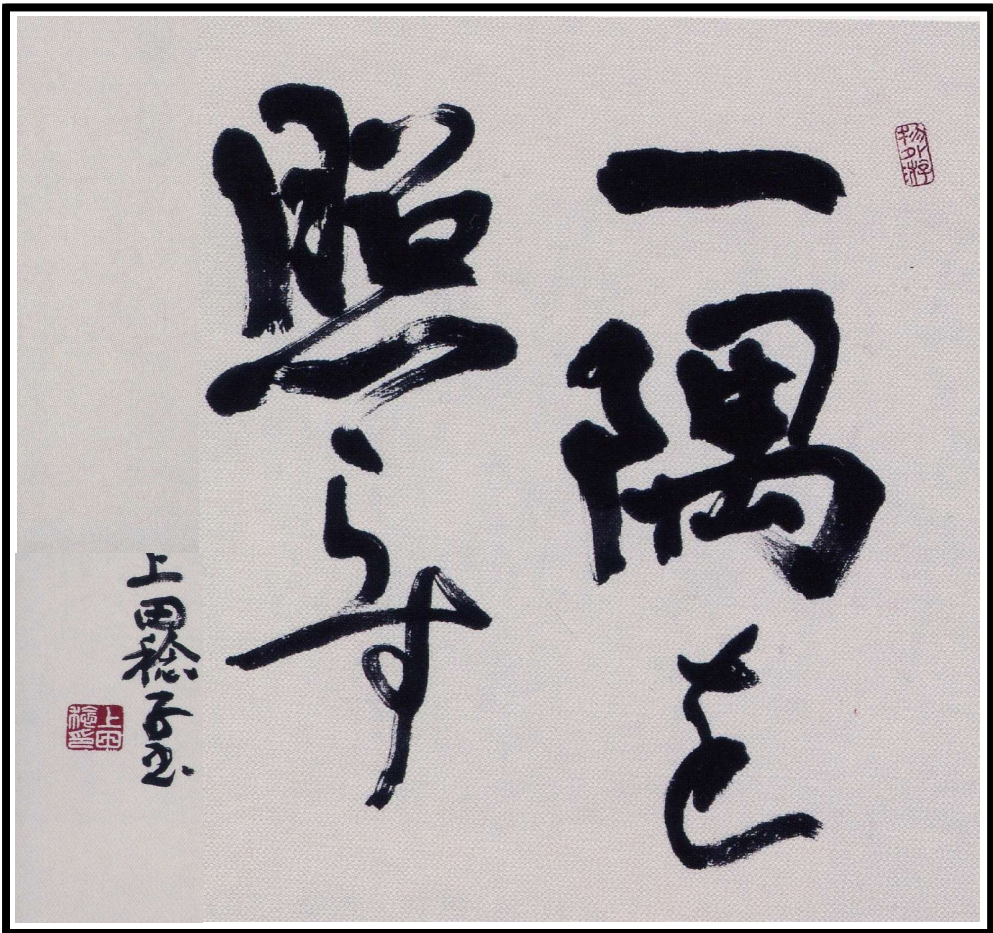


# 婦人会報

立教184年 4月

令和三年  
2021年



天理教婦人会旭日支部

通巻502号

# 立教百八十四年 教会長夫妻研修会

去る立教百八十四年三月二十四日、月次祭祭典終了後、四階講堂にて教会長夫妻研修会が開催されました。

大教会長様の開講のご挨拶の後、天理大学人間学部 生涯教育専攻の杉山晋平准教授を講師にお迎えし、「おたすけが難しくなった世の中で、私を感じた教会の魅力と可能性」について、ご講話頂きました。



天理大学人間学部 准教授  
杉山 晋平先生

(以下講話抜粋)

一、おたすけの難しい世の中？

杉山先生は普段、地域社会の中で、あらゆる世代のつながりと学びの場の提供を目的として様々な活動を展開されています。その中で、一九九一年のバブル経済崩壊以降、地域社会において他者を受け入れない心理的な排他思考が人々の心に拡がり、心をつなげることが難しくなってきたと感じておられるそうです。

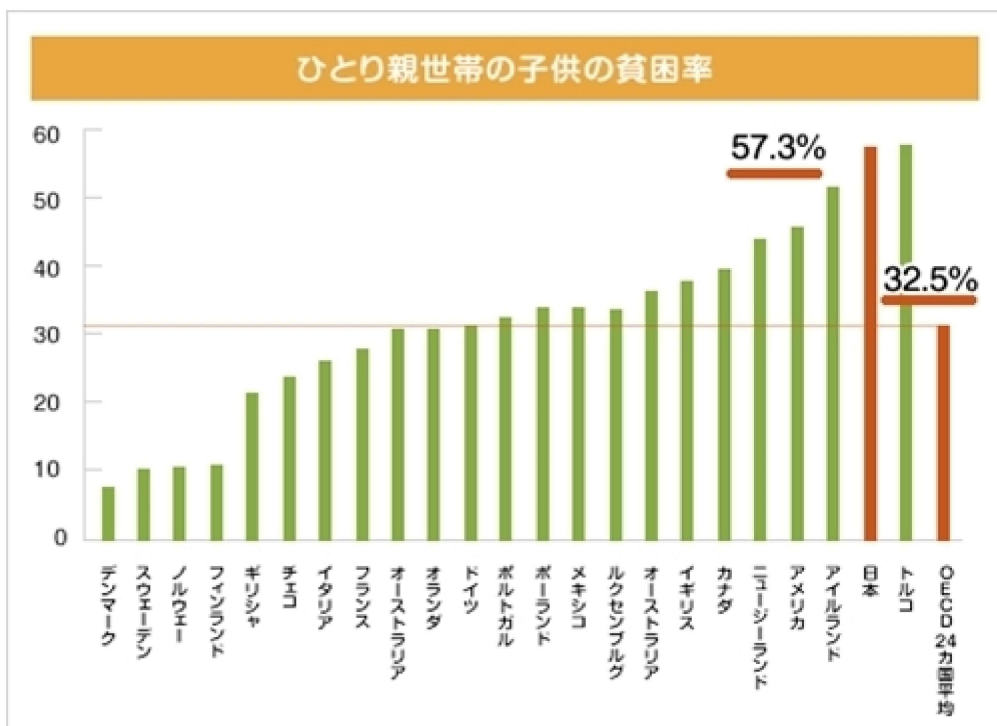
二、「弱さ」をみせられない社会？

現在、医療の進歩やコンピューターネットワークを中心とした情報テクノロジーの発達によって我々の暮らしや仕事は非常な速度で変わりつつあります。また、そのことを進歩と捉え、生活を

便利で快適なものにし、様々な社会の問題を解

決するであろうと政府広報は宣伝しています。片方で、地域社会においては少子高齢化が進み、経済は縮小、人口の少ない地方自治体は存亡の危機を迎え、人々をつないできた祭りやイベントの担い手は居なくなりつつあります。また、家庭生活においても核家族化からひとり親世帯が増え、子供の七人に一人は相対的貧困状態にあり、仕事と日々の生活に追われ、心理的余裕を無くした家庭では児童虐待や成人するまでに家族を介護しなければならぬヤングケアラーの問題を新聞やテレビニュースで目にしない日はありません。

標準的な生き方や家庭のモデルを失った社会において心理的不安から、救いを求めるニーズは多いのに、他者とつながりにくい現代社会において我々天理教教会の果たすべき役割とは何でしょうか。



データ制作：特定非営利活動法人3keys



### 三、だからこそ、天理教って ♪

杉山先生は 各地の教会が地域社会において人と向き合い認知されてきた実績と 地域を越えたネットワークの広さに可能性を感じているとおっしゃいました。

また、困った時に手を差し伸べるだけでなく、目的を持たずに人々が自然に寄り集うことが出来る場を社会教育の世界では「サードプレイス」と呼ぶそうです。人々がゆるく寄り添える場ということも教会の役割ではないでしょうか、と先生はご講話を結ばれました。

ご講話の後、大倭宮分教会の宮田先生と久辰分教会の庄司先生、樺本分教会の松田先生が質疑応答を杉山先生と交わされました。また、閉講にあたり総務部長の松田清重先生よりご挨拶を頂きました。

### ★サードプレイスとは？



①ファーストプレイス  
(家庭など)



②セカンドプレイス  
(学校・職場など)



③サードプレイス  
(地域における場所)

**※そんなつながりの場所こそ教会に！**





## 少年会旭日団 おぢばがえり総会



去る、3月28日（日）、第50回少年会旭日団おぢばがえり総会が行われました。早朝より降り続いた雨は、本部神殿の東礼拝場への集合時間の頃には上がり、少しの晴れ間も見せて頂きました。拍子木の音が鳴り始めると、子どもたちは皆、真剣に前を向いておつとめをつとめました。コロナウイルス感染拡大防止の為、大きな声を出すことは適いませんが、去年は集うことすら出来なかったことを思うと、子どもたちの元気な姿を親神様、教祖に見て頂くことが出来、感激もひとしおでした。



その後、天理大学柚之内第一体育館へ移動し、式典が行われました。軽快な司会進行、小中高校生による、美しい音色の弦楽演奏、そして迫力あるドラム演奏に子どもたちは引き込まれていきました。


ピッキーとリボン、リトレンジャーが登場すると、特に小さいこどもたちは手を振って喜んでいました。終始笑顔に包まれたおぢばがえり総会となりました。

参加人数は少年会員139名、育成会員171名、合計310名でした。

- 場所 東礼拝場・天理大学柚之内第一体育館
- 動き 09:30 本部神殿東礼拝場集合
- 10:00 おつとめ
- 10:30 天大体育館へ移動、入場
- 11:00 式典
- 12:15 終了、解散

- 内容 カルテット演奏、ドラム演奏、ピッキーとリボン登場など





## 「こかん様に続く会」ご案内

昨年来続くコロナ禍の中、なかなか十分に活動が出来ない状態が続いています。その中でも昨年は、11月29日にオンラインにて開催された「若人の祈り」に向けて、旭日女子青年として『毎日喜びを見つけよう』、『喜びの輪を広げよう』、『親神様に感謝申し上げます』とテーマを決めて、コロナに負けずに毎日を過ごさせて頂く取り組みをさせて頂きました。また、11月3日には、久しぶりに直接集まって本部参拝、回廊ふきをさせて頂き、集えることの喜びを実感させて頂きました。

さて、今年度の「こかん様に続く会」を下記の通り開催させて頂くこととなりました。どうぞお声掛けの程、宜しくお願い致します。

なお、参加申込は4月24日までに女子青年担当の係までお届け頂きますようお願い致します。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の今後の対応によりましては、行事を中止または延期することになりますので、ご了承下さい。


### 記

- ★日時 5月2日(日) 9:30 《青年会と合同》  
教会本部境内掛本所前集合  
東礼拝場にておつとめ  
10:00 草引きひのきしん  
(雨天の場合、廻廊ふき)  
10:45 《女子青年のみ》記念建物見学  
11:30 大教会へ移動  
12:00 支部長様よりお話  
12:30 昼食  
13:30 解散

- ★持ち物 はつぴ・草引きの準備(軍手・敷物など) (※雨天時、膝当て)

旭日女子青年部

担当 関 薫、山崎 さとえ、森下 由紀子



# 五月例会案内

日時 五月五日 (水・祝) 午前十時  
場所 旭日大教会  
内容 教祖祭

お願いごとめ

よろづよ八首

お話 (おふでさき第三号より

欒本委員部 松田和代)

弁当配布

## いっかん様に続く会

日時 五月二日 (日) 午前九時三十分  
場所 本部境内掛本所前

詳細は別ページご参照下さい



## 五月例会役割

扈者	木村 昌子	関 薫
賛者	山崎 さとえ	前田 理恵
指図方	庄司 典子	

※五月の鳴物当番はありません。

## 五月月次祭当番

※五月の炊事当番・託児当番はありません。



今月の表紙より「一隅を照らす」とは、「一人ひとりが自分のいる場所で、自らが光となり周りを照らしていくことこそ、私たちの本来の役目であり、それが積み重なることで世の中が「つくれる」という意味があるそうです。新年度が始まり、新しい気持ちで自分の今できることをさせていただきます。

※社会状況によって変更になる場合がございます。



発行日

令和三年四月五日

発行者

岡本道子

発行所

天理市田井庄町一二八  
天理教婦人会旭日支部